

## 令和3年度 第1回 学校関係者評価委員会 記録

- 1 日 時 令和3年6月23日(水) 午後1時50分～午後2時50分
- 2 場 所 会議室
- 3 出席者 新屋敷委員, 田代委員, 谷下委員, 猩々委員  
校長, 教頭, 事務長, 教務・生徒指導・進路・保健主任, 農林技術・生活情報主任
- 4 会 順 (進行: 教頭)
  - (1) 校長あいさつ
  - (2) 今年度の計画(案)(教頭)
  - (3) 協議
    - ア 学校の概要・昨年度の実績(教頭)
    - イ 教務部・生徒指導部・進路指導部・保健部・各学科から資料等による説明
    - ウ 評価委員からの質問・意見等  
〈質問〉
      - Q: 学校で見られる生徒の姿とも, 家庭で見られる生徒の姿とも異なるのが校区内での生徒の動きである。校区内での生徒の動きをつかめるといふ点でも, 職員でローテーションを組んで各校区での青少年育成会議への参加をされてみてはどうか?
      - A: 検討します。
      - Q: 「コロナ鬱」の症状は本校では出ていないということだったが, マスク着用による身体面での変調を訴える生徒はいないか?
      - A: 今のところそのような生徒はおりません。
      - Q: 特別指導の件数増加について, その中身は?
      - A: 交通関係(速度超過)や弓道場への侵入など一つの案件で複数の指導対象者がでたためです。
      - Q: 学習指導要領の改訂にともなって, かけ算が高等学校の教科書に記載されるようだが, 高校生の学力低下はそこまで来ているのか。
      - A: クラスによっては, かけ算の九九が言えない(定着していない)生徒が半数はいると想定されます。
      - Q: 教育課程や学校経営方針との調整ができるならば, 就農後継者としての強い意志を持つ生徒を国内や海外の農業技術先進地に長期研修させられたら良いのではないか。昨今はコミュニケーション力の不足が言われ, 保護者の先取り, あるいは指導助言の放棄ともとれる状況がある。主体的に生きず, 他に依存する人が増えていないか。自分で主体的に考え行動する機会を教育の場で与えられないかという意味でも長期研修制度ができないか。

A：小・中学校の学びの中で置き去りになってきた生徒が，専門高校での学びの中で意欲を高め，大学に進学する例があります。学ぶことの充実感を与えられることが専門高校の魅力です。高校だけではなく，地域，家庭，小学校，中学校，高校などの連携の中で生徒を育てていくことが大切であると考えます。ご提案についてこの場では具体的な答弁はできませんが，本校に入ってきた生徒をしっかりと育てていくことに尽力したいと考えます。

〈意見等〉

- ・部活動経験は将来役立つと思うが，部活動の加入率が昔に比べて低い。中学や高校で部活動を頑張った人は，大人になっても相応の社会的立場・仕事をしている。部活動を頑張って部活動生を増やして欲しい。
- ・自身の高校時代を振り返ってみても，就農後継者として本校に入学してくる生徒もいれば，サラリーマン家庭の生徒もいた。様々な生徒がいたが，皆で協働することを通して自分が好きになれるものを見つけていた。学校の学びの中で好きになれることが見つけられると良いのではないか。
- ・野球場の草が伸びてきているので，草刈り等をお願いします。人手が足りないときはPTAも協力します。→学校職員が翌日から草刈りを開始し整備を進めています。

(5) 信頼される学校作りのための委員会及びいじめ防止対策委員会

- ア 学校側より資料の説明
- イ 評価委員からの意見等 特にありませんでした。

(6) 水難事故防止対策連絡会

- ア 学校側より資料の説明
- イ 評価委員からの意見等 特にありませんでした。